

平成28年度公共事業事後評価に関する質問事項・回答書

委員名	秋葉委員		
番号	H28-1	事業名	かんがい排水事業
地区名等	指久保		
(質問等)			
平成28年事後評価時には、平成22年再評価時と比較して、水稻作付面積が29ha拡大しており、生産量の増加も予想されるが、農業生産効果として明記されていないのは、何か理由があるのでしょうか。			
【回答】			
水稻は、生産量が増加している一方で、作物単価の下落（ $\Delta 51.7$ 円/kg）により、効果額が減少していることから記載していません。			
一方、作物単価が大きく上昇したナガイモについては、評価調書に追記することとしたいと考えています。			

委員名	大橋委員		
番号	H28-1	事業名	かんがい排水事業
地区名等	指久保		
(質問等)			
事後評価アンケートについて、アンケート対象が「指久保地区の用水管理地域内の抽出された農家」とされている。配布部数及び回収部数共に少ない印象を受ける。他の事業では、統計的信頼性を確保するために、300部以上を目標としてアンケート調査が設計されているように推察されるが、当該事業でのアンケート調査の標本設計の根拠を明記する必要があると考えられる。今回の配布・回収数であれば全数調査で良かったのではないか。			
【回答】			
県では、平成20年度に開催された青森県公共事業評価システム検討委員会において、アンケート調査の配布部数について検討し、限られた予算や時間などの制約を踏まえ、標本数を100件程度としているものです。			
本事業に関するアンケート調査の実施に当たっては、回収率を見込み、全受益者約1,700人の1割に当たる170人に配布することとし、偏りが生じないよう地域バランスを考慮しながら、関係農家から無作為に抽出し調査を実施しました。			

委員名	丹治委員		
番号	H28-1	事業名	かんがい排水事業
地区名等	指久保		
<p>(質問等)</p> <p>平成22年の転作率47.6%に対し、平成28年の再評価時の転作率は48.1%になり、その結果B/Cは1.11 (H22) が1.02 (H28) に低下している。</p> <p>今回の評価では問題はないが、この方法では、今後転作率が増加するとB/Cが1を切る可能性が高い、したがって、ダムの評価における転作率とB/Cの扱いについて、予め整理しておくべきと考える。例えば転作率50%であれば有効貯水量も半分ではないはずという議論もありうる。中長期には再編するか、現行でいくかの選択になる。</p>			
<p>【回答】</p> <p>(1) 転作率とB/Cの関係について</p> <p>転作率の増加が必ずしもB/Cの低下につながることはなりません。</p> <p>事後評価時点でB/Cが低下している主な要因は、効果算定項目のうち、「作物生産効果」が大きく減少しているためであり、その原因としては、地区内で栽培されている水稻を始め、大豆やニンニク、ニンジンなど、主要な農作物の単価が大幅に下落したためです。</p> <p>なお、地区内で栽培されている作物のうち、ナガイモやゴボウの単価が上昇しており、今後、こうした高収益作物の導入が促進されれば、地域の作物生産額が向上し、本事業におけるB/Cが増加することとなります。</p> <p>(2) 転作率と有効貯水量について</p> <p>転作率の上昇に伴い、水稻の消費水量は減少することとなりますが、本地区では田畑輪換を行う中で畑から水田に戻す際に多くの水を消費すること、畑作においても用水を必要とすること、末端農地へ送水するためには水路の水位を確保する必要があることなどから、水稻面積が減少しても計画どおりの水量が必要となっています。</p> <p>このため、当面は、現在の運用を継続し、将来的には必要に応じて用水計画の見直しを検討していきたいと考えています。</p> <p>また、本ダムは豪雨時の洪水貯留機能も有しており、災害防止に寄与しています。</p>			